

令和5年度 全国学力学習状況調査結果から

『中部中学校 3年生の現状と今後の課題』

生活面

起床時間が一定の生徒が多く、ほとんどの生徒が朝食を毎日摂っていることから、規則正しい生活習慣を心がけている生徒が多いと考えられる。就寝時間は同じくらいの時刻に寝ている生徒が30%程度と少なく、自分で計画を立てて勉強することが苦手な生徒が50%、学習塾を利用し学習を進める生徒が70%程度いることから、学習に対する苦手意識や受験勉強から就寝時間が不規則になりがちな生徒が3年生に多い。

学校での生活については、「教師が自分の良いところを見てくれる」と考えている生徒が90%、「困ったときすぐに相談できる教師や大人がいる」と考えている生徒が75%であり、どちらも全国平均を上回っている。しかし、相談できる大人がいないと考えている生徒や「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、当てはまらないと考えている生徒が30%程度いる。学校としては、これまで以上に日々の様子を見守り、変化に気づき、寄り添っていく必要がある。

「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」に関しては、90%程度の生徒が当てはまると感じている。学校生活と家庭生活の双方が関係する項目であるため、これをより良くしていくために、学校と各家庭での情報交換を大切にしていきたい。そして、生徒一人ひとりが幸せを感じられる生活になるよう、生徒のつまづきの原因と考えられる学習支援に力をいれ、学校と保護者、地域と連携を図り、これまで以上に地域全体で生徒一人ひとりを見守れるよう尽力したい。

国語

1. 観点別の結果

「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」は全国平均を上回っており、話し合い活動や聞き取ったことを基に自分の考えをまとめたり、相手の立場に立って文章を整えたりすることが得意な傾向が見られる。一方、「C 読むこと」は全国平均を下回っており、文章を読んで理解したことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げることが苦手とする傾向がうかがえる。「D 知識及び技能」は、古典の基礎知識を問う設問は全国平均を上回っていたが、根拠を明確にして考える設問ではやや下回った。

2. 今後の課題

基本的な知識を問われる問題に関しては、全国と比較しても高い水準であると言える。また、無解答率が全国平均を大きく下回っており、自分の考えを表現する実践意欲の向上は協同的探究学習を取り入れてきた成果だと言える。しかし、文章を読んで理解したことを知識や経験と結び付けたり、文章を比較して考えたことを根拠を明確にして書いたりする問題の正答率は全国平均をやや下回っている。今後も読解力を高める指導を粘り強く進めるとともに、既存の知識や他者の意見など、複数の事柄を関連付けて自身の考えを深める協同的探究学習を積極的に取り入れていきたい。

数 学

1. 観点別の結果

文字式の計算、関数における表やグラフの読み取り、データの活用については比較的正確率が高い。特に、箱ひげ図から分布の傾向を捉え数学的な表現を用いて説明する問題の正確率は、他校同様低めではあるものの全国平均を上回っており、これまで本校が苦手としていた記述の問題で改善傾向が見られた。一方、三角形や平行線の性質を使って証明する問題は正確率が低く、図形の証明に苦手意識を持つ生徒が多いと考えられる。

2. 今後の課題

データを分析し説明する問題ができていたことは、協同的探究学習を進めてきた成果と考えられるので、今後も継続していきたい。

図形の証明問題については、まず「わかる」ことに注力し、その後記述の仕方を少しずつステップアップしながら進めるなど、丁寧な指導を心掛けたい。

また、全体として本校は高得点・低得点の割合が少なく平均的な生徒が多い。今後高得点の生徒を増やすためには、習熟度別授業を早い段階から始めたり、ICTを活用したりするなど、個に応じた学習ができるよう授業形態の工夫が必要であると思われる。

英語

1. 観点別の結果

本校の平均正答率は、全国平均より 5.6 点、兵庫県平均より 7 点低い結果となった。これは 5 年前の結果からさらに 2 点ずつ下回る結果である。観点別では、「聞くこと」の正答率が全国平均に比べて約 10 点ずつ低くなっている。「書くこと」においては、選択式、短術式の問題は全国平均と変わらないが、記述式の問題の無回答率が 30% と高かった。苦手意識から、初めから手をつけない生徒が多いことが伺える。

2. 今後の課題

質問内容を理解できても、適切に応答することができない解答類型が目立った。基本的な知識や技能をしっかりと身につけるために、授業では反復学習に力を入れていきたい。また、楽しい雰囲気の中で自然と英語を口にできる活動を増やして、苦手意識をなくし、学習意欲の向上につなげていきたい。

英語(話すこと)

1. 観点別の結果

「話すこと」試験においても、本校の生徒正答率は全国平均を下回る結果であった。問われている内容はわかっている、正しい返答の仕方が身につけていない生徒が多いように見受けられる。

2. 今後の課題

まずは質問に対してどう答えるかという基礎的な知識の定着を図りたい。そして場面に応じた正しい応答ができるように、身近な話題を題材にしたペア活動などを通して「話すこと」に対する抵抗感を減らしていきたい。